

平成 2 1 年度 実施事業	<b>事務事業名</b> 特別保育事業（延長保育）
-------------------	---------------------------

区分	番号	名 称
章	1	やさしさと共生するまち
節	1	安心して子どもを生み育てられるまちをつくる
施策	1	子育ての不安と負担の軽減
小分類	3	子育て環境の整備
主要な施策	4	乳幼児等保育の充実
事務事業番号	002	事務事業コード 11134002 事業開始年度 平成 8 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	延長保育実施経費
------	------	------------	----------

部 名	保健福祉部	グループ名	子育てG
-----	-------	-------	------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

対象	<p style="background-color: #ffffcc;">（何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのかを具体的に記載ください）</p> 保育所に入所している児童とその保護者
手 段 （ 事 業 の 内 容 ・ 活 動 ）	<p style="background-color: #ffffcc;">（目指す姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の内容を具体的に記載ください）</p> 普通保育の開所時間（7：15～18：15）の終了後、19：15までの1時間について延長保育を実施する。（普通保育料とは別に1日200円を徴収する。）  利用実人数：211人（登別31人、幌別東41人、富士56人、栄町55人、鷺別28人） 利用延べ日数：3,224日（登別442日、幌別東706日、富士858日、栄町923日、鷺別295日）
目 指 す 姿 （ 成 果 ）	<p style="background-color: #ffffcc;">（事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載ください）</p> 保護者の就労形態の多様化に伴い、保育時間を延長することで児童の健全育成及び保護者の身心の負担軽減を図る。
根 拠 法 令 等	<p style="background-color: #ffffcc;">（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載ください）</p> ・児童福祉法      ・登別市保育実施条例施行規則

指標の推移

区 分		単位	区分	21年度 実績	22年度 目標	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標
成果 指標	利用実人数	人	目標値	200	200	200	200	200
			実績値	211				
	延べ利用日数	日	目標値	4,300	4,300	4,300	4,300	4,300
			実績値	3,224				

事業費の推移

区 分			単位	21年度 決算	22年度 当初予算	23年度 見込	24年度 見込	25年度 見込	23～25年度 合計
事業 の 財 源 内 訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称 延長保育料	千円	280	384	384	384	384	1,152
	一般財源	名称	千円	94	172	172	172	172	516
合 計				374	556	556	556	556	1,668
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	0	0			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	8,254	8,315			
			合 計		8,254	8,315			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 本事業は、仕事と子育ての両立支援策として有効な事業である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 本事業の目的である、児童の健全育成及び保護者の就労支援等という点では成果があがっていると考える。(成果指標は、目的に対する数値化は困難なため、利用日数等を使用している。)
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 事業を継続的に実施し、保育時間を延長することで児童の健全育成及び保護者の身心の負担軽減を図ることができる。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト(予算や人工、所要時間)を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 人的なコストを含め、必要最小限の経費で実施しているため、削減は難しい。

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠) 本事業は、就労形態の多様化により保護者のニーズが高く利用実績も相当数あり、また、仕事と子育ての両立支援策としての効果は大きいことから、引き続き、必要な事業である。
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

総合的な評価(当該事務事業の方向性)

維持	備考
----	----

評価の種類

- 拡大(事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業)
- 維持(現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業)
- 改善(現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業)
- 休止(暫定的に休止する事務事業)
- 終了(当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業)
- 廃止(当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業)